



2016

今回の紙面



◆年頭のごあいさつ

◆看護師さんのページ NO. 40 《安田和子 所長》

◆平成 27 年度第 4 回地域医療支援会議

◆地域医療最前線 NO. 60 《坪内健 院長》

◆研修医のページ NO. 43 《佐藤弘樹 先生》

◆平成 27 年勤務医師実態調査・

看護職員実態調査の結果

## 年頭のごあいさつ

島根県健康福祉部医療政策課

医師確保対策室長 安食 治外



島根県が行う医師

確保養成対策に格別のご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。本年も変わリませず、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、島根県では、県外から医師を招へいする取組みはもちろん、これまで大学などと連携し地域枠入試制度や奨学金の貸与によって地域医療に志のある若手医師を育てる取組みを行ってきました。奨学金を貸与した方のうち地域枠出身者を中心にすでに104人が医師となっており、今後も毎年20人を超える医師が誕生し、その後の地域勤務が期待されています。

私もこれらの研修医さんや医学生さんと交流し、お話しする機会を通し、彼らの地域医療に対する思いの深さに頭が下がる思いがいたします。

こうした思いに応えるためには、彼らが、島根県に軸足を置きながら、安

心して研修、勤務ができるような環境作りが必須です。

島根県では、大学、県医師会、県内医療機関、市町村、県で構成する「しまね地域医療支援センター」を島根大学医学部内に設置しており、オールしまねで若手医師のキャリア形成支援、充実した研修体制の構築支援、ワークライフバランスの推進などに取組んでいます。

初期臨床研修段階では、8つの臨床研修病院で「島根県臨床研修病院連絡会」を設け、各病院の特長を活かしつつ島根県内での研修の充実を図る取組みを昨年度から始めました。

また、後期研修段階では、平成29年度から始まる新専門医制度を見据え、地域枠出身や奨学金を受けた医師が、地域勤務をしながら専門医の取得ができるよう、大学と連携しながらその仕組みを構築しています。

このような取組みを通じて、さらには、よき指導者、先輩医師との人のつながりを大切に感じることができ、島根県で医師を続けて良かったと言ってもらえるような、研修環境、勤務環境づくりを目指します。

一方で、昨年10月に全病院と公立診

療所を対象に実施した「勤務医師実態調査」によりますと、島根県全体の常勤医師数は、798人と一昨年同時期より13人減少しました。医師の充足率も76・5%と依然として厳しい状況にあります。

このような厳しい状況の中で、各医療機関、市町村の皆さま方におかれては、地域医療の確保に最大限尽力されていることに深く敬意を表します。

県といたしましては、大学はもとより、医療機関、市町村等と連携を密にし、一人でも多くの医師に島根県で勤務していただけるよう様々な事業に積極的に取組んでまいりますので、今後とも、皆さま方の変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。



医療法人正光会 松ヶ丘病院

院長 坪内 健



益田に住み始めて12年目に入りました。益田に越してくるときに、借家に住んで地域

の仕事にも参加するつもりでいました。

つけて。

## 公益社団法人島根県看護協会

### 訪問看護ステーションいずも

所長 安田 和子



島根県看護協  
会は、松江・出  
雲・大田・浜田  
の4市で訪問看  
護ステーション

を開設しています。

訪問看護ステーションいずもは、1997年10月出雲市小山町(2001年に現在の姫原町に移転)に常勤職員3人で開所しました。当初は訪問看護について、病院や行政職員の理解度は

低く利用者の紹介が少なく、関係機関へ説明に歩いたのを思い出します。

今は、看護師13名・事務職員1名の14名(2015年10月1日)で地域の方々の健康の維持・増進、疾病の予防、異常の早期発見、ターミナルケア、看取り等さまざまな健康レベルの方へ支援をしています。

在宅療養者の不安が大きくなる休日や夜間については、電話相談や必要時

に訪問するために2名の看護師が24時間対応体制をとることで、安心して在宅生活を送っていただいています。

訪問の対象は、神経難病(人工呼吸器装着の方常時5名前後)、脊髄損傷、がん末期、認知症、呼吸器疾患、循環器疾患、精神疾患等で医療依存度の高い方が大半です。

在宅での看取りは、ご本人・ご家族の意志を尊重し、支援体制を整え、「自宅で最期まで過ごさせたい」と希望される方が増えつつあります。

グリーンケア(ご遺族のケア)に死後3週間頃に伺ったとき、「多くの方に支えられ安らかな最期でした。悔いはありません。」とお気持ちを話しくたさることもありました。

在宅等で療養されているご本人・ご家族の自己決定を尊重し、住み慣れた場所で生き生きと生活していただくには、信頼できる支援チームが必要です。

出雲市には在宅医療を進める頼もしい15か所の訪問看護ステーション(2015年4月1日)があり、信頼できる在宅医・ケアマネジャー・ヘルパー・薬剤師・理学療法士等が揃っており、地域包括ケアシステム構築に向け多職種が連携を深め役割を果たしています。

月に1回は日曜の朝に溝掃除がありま  
す。メンバーのほとんどが還暦を過ぎ  
た男性で、女性もそこそこ混ざってい  
ます。下の世代の若い衆は出て来ませ  
ん。僕は岡山出身のよそ者で、メンバ  
ーの中ではダントツの若手でした。ベ  
テランのおじさま方は猫車やスコップ、  
時には自作の溝掻き棒を持参し、慣れ  
た手つきで溝掃除をされます。転居時  
に一応挨拶に回りましたが、溝掃除の  
おかげで顔と名前が一致し、会話も交  
わすようになりました。そのうち子ど  
もは隣のおばあちゃんの上に上がりこ  
んでおやつをもらったり、一緒に散歩  
するようになりました。近所のおじさ  
まから手作りの漬物やポン酢をいただ  
くようにもなりました。ここに来てか  
らご近所のお葬式は2回ありました。  
盆踊りも見よう見真似で踊りました。  
妻も子どももこの地を離れがたく、近  
くに土地を探して家を建てました。今  
年度は地域の組長をしています。

からみますが、僕は主体的な行動とし  
てこの地に住むことを選びました。ま  
ずは医療人というより生活人としてこ  
の地で生き抜くのが、僕と家族のささ  
やかな目標でした。そして住み始めて  
数ヶ月で僕は益田の住みやすきに魅了  
されました。この地には、よそ者に寛  
容で多様性を許容する風土があり、勤  
務医・開業医を問わず、市外・県外の  
出身者が多いです。程度の差はあれ、  
それぞれが主体的にそういう選択をし  
ているのだろうと思います。僕の場合  
は単に心地よいからここに住み、この  
地で生活を営むために働き、そして少  
しでも自分の住む地域がよくなるよう  
にと願って生きています。そういう単  
純な思いが、地域医療の第一歩になる  
のだと思います。

僕の実感として、ここは住むと元気  
になる場所です。病院の職員や地域の  
人たちが僕の患者さんに優しくしてく  
れるし、土地と風土の醸し出す治癒力  
も働いて患者さんが自然によくなりま  
す。僕はそれを邪魔しないように工夫  
しています。そうすると僕も地域と共  
に歩いている感じがして幸せです。あ  
れこれ考えず、思いきり自分が幸せに  
なればよいと思っています。地に足を

地域というのはどこにでもありま  
す。東京にも離島にも僕の故郷の岡山  
にも、そして島根県の西にも東にも。  
親と名前は選べないけど、住む場所と  
結婚相手は主体的に選べます。もちろ  
ん縁や導きやもろもろの現実的事情も

在宅医療も目まぐるしく変化しており、訪問看護師の人材育成も喫緊の課題です。

ステーションいずもの職員は資質向上を目指し、個々に年間目標を掲げ、県内外の研修に積極的に参加しています。今後も継続し地域医療に貢献していきたいと考えています。



のページ

NO. 43

島根県立中央病院

救命救急科後期研修医 佐藤 弘樹

〔第1回EBMワークショップ in 島根 開催〕



私たちが日常臨床において診察の時に問診、視診、聴診、触診を行い必要があれば検査を行い、診断に至った場合、治療法を検討し患者に説明し実施するといった一連のプロセスを取ります。これら各々の必要性の根拠は医学論文に集約されています。しかし、医学論文の解釈は医師によって異なり、患者の希望によって応用は異なります。これまでに抄読会で論文を読み、結果に対する

吟味を行うことはありますが、その論文が実際の個々の患者にどのように反映していくかといった内容を複数で討議する機会は少ない印象です。今回、この部分をワークショップ形式で行うことにより、考え方の多様性について学ぶ機会を設けたいと考え、研修医向けにEBMに関するワークショップを

12月19日、島根県立中央病院で開催しました。全国的にはEBMワークショップは頻繁に開催されており、今回、ファシリテーターとして活躍されている倉敷中央病院 耳鼻咽喉科 藤原崇志先生をお招きし、出雲市民病院 家庭医療科 松本賢治先生とお二人の先生に2部構成でワークショップを担当して戴きました。

1部は松本先生による「診断に使えるEBM」という題で、診察所見、検査所見に存在する感度、特異度、尤度比を用いて事前確率から事後確率がどの程度上がり、どれほどの確率になると治療に踏み込むかといった計算を行いました。各班で事前確率は元より治療閾値も異なっており、診断のプロセス、考え方の違いがあり、討議は大変盛り上がりしました。

2部は藤原先生による「治療に使え

るRCTの読み方」という題で、臨床試験を理解するための12のチェックポイント(CRITICAL APPRAISAL SKILLS PROGRAM)を用いて、RCTの批判的吟味を行いました。具体例として「救急外来に咽頭炎を主訴に来院した若年患者が抗生剤処方希望したため、抗生剤を処方するか」を検討しました。



RCTの結果から有意差は認めないといった結果でしたが、個々によつては投与を考慮するという判断もあり、各々の理由には興味深いものもありました。

EBMには「経験」「価値観」「資源」

「根拠」の4つの要素があり、「論文に書かれていること」は一要素にすぎず、我々の経験、患者の価値観、現場の環境によって異なってきます。これらの問題をハイブリッドに解決する能力を医師には求められています。医師の生涯において、研修医はこれらのプロセス形成期にあり、患者にとっての真の

アウトカムを求めること、それが努力目標です。今後も研修医の知識向上に向け、定期的開催を検討していきたいと考えています。

(注)EBM: Evidence Based Medicine,

RCT: Randomized Controlled Trial

平成27年度  
第4回 地域医療支援会議

平成27年12月24日(木)、平成27年度第4回島根県地域医療支援会議をオンラインポータルも(松江市)において開催しました。今回は、県内7圏域の代表から、義務年限内自治医科大学卒業医師の派遣要望をお聴きするとともに、県が毎年調査を実施している「勤務医師実態調査」と「看護職員実態調査」の結果を報告しました。

派遣要望については、19医療機関(昨年度と同数)から35名(昨年度より1名減)の要望がありました。各圏域からは、高齢化による医師の退職などにより慢性的に医師が不足している状況や、在宅医療を推進する中で総合的に診療できる医師が必要とされていることなどが報告されました。今回いただいた要望を受け、県において来年

度の派遣計画案を検討し、次回の地域医療支援会議でお示しする予定です。

また、県内の公立・公的病院や地域医療拠点病院の院長から近況を報告していただきました。その中で益田圏域では、圏域内の病院が機能分担を進めており、病院間で医師を相互に派遣する連携協定を結んでいることなども報告されました。

地域医療構想の策定や新専門医制度など、地域医療を取り巻く環境が大きく変わる中、関係者が知恵を出し合い連携を深めていくことが必要と感じました。

【医療政策課 六倉】

**平成27年 勤務医師実態調査  
看護職員実態調査の結果**

島根県では、このたび島根大学医学部、しまね地域医療支援センターと合同で、県内の病院と公立診療所を対象に勤務医師実態調査を行いました。

また、県内の全病院を対象に看護職員実態調査を行いました。

各調査結果の概要は次のとおりです。詳細は、医療政策課ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

**平成27年 勤務医師実態調査**

**1 調査の目的**

医師の地域や診療科の偏在をはじめ深刻化する医師不足の実態を把握することにより、今後の島根県における医師確保対策の基礎資料を得ることを目的とする。

**2 調査の概要**

- (1) 調査期日 ・平成27年10月1日現在
- (2) 調査対象 ・県内に所在する病院（51病院）及び公立診療所（41診療所）
- (3) 回答状況 ・51病院、40診療所（1診療所休止中）
- (4) 調査条件 ・必要数は、現行の診療体制を基本とし、平成28年4月1日に必要な人員  
・現員数は、調査期日現在の人員とし、非常勤医師については、1週間の当該施設の医師の通常の勤務時間により、常勤換算  
・現員数は、初期臨床研修医を除く

**3 調査結果の概要**

- ※島根大学医学部附属病院は、医育機関のため、集計の対象外とする
- (1) 必要数 : 1,222.3人（前年比+8.8人）
- (2) 現員数 : 935.4人（前年比△15.4人）  
うち常勤医師数 : 79.8人（前年比△13人）
- (3) 充足率 : 76.5%（前年比△1.9ポイント）
- (4) 二次医療圏別 : 常勤医師数は、出雲△10人、浜田△6人が大幅減  
充足率は、松江、益田を除き低下

区分		年	全県	松江	雲南	出雲	大田	浜田	益田	隠岐
必要数	H26	1,213.5	445.7	85.2	270.6	89.9	173.2	116.7	32.2	
	H27	1,222.3	449.8	84.1	274.8	92.1	176.9	111.8	32.8	
	増減	8.8	4.1	△1.1	4.2	2.2	3.7	△4.9	0.6	
現員数	H26	950.8	365.5	54.2	225.6	63.2	124.5	88.5	29.3	
	H27	935.4	372.1	52.6	215.5	63.3	112.8	89.6	29.5	
	増減	△15.4	6.6	△1.6	△10.1	0.1	△11.7	1.1	0.2	
常勤医師数	H26	811.0	334.0	35.0	196.0	52.0	98.0	70.0	26.0	
	H27	798.0	338.0	36.0	186.0	51.0	92.0	69.0	26.0	
	増減	△13.0	4.0	1.0	△10.0	△1.0	△6.0	△1.0	0.0	
充足率	H26	78.4	82.0	63.6	83.4	70.3	71.9	75.8	91.0	
	H27	76.5	82.7	62.5	78.4	68.7	63.8	80.1	89.9	
	増減	△1.9	0.7	△1.1	△5.0	△1.6	△8.1	4.3	△1.1	

【参考】島根大学医学部附属病院を含む常勤医師数

常勤医師数	H26	1,110.0	334.0	35.0	495.0	52.0	98.0	70.0	26.0
	H27	1,105.0	338.0	36.0	493.0	51.0	92.0	69.0	26.0
	増減	△5.0	4.0	1.0	△2.0	△1.0	△6.0	△1.0	0.0

※島根大学医学部附属病院常勤医師数（H26:299人、H27:307人）は出雲圏域に含む

- (5) 診療科別充足率 : 皮膚科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・救急が70%未満  
二次医療圏別 : 松江で救急、大田で耳鼻咽喉科、浜田で救急、隠岐で耳鼻咽喉科が20%未満
- (6) 女性医師 : 常勤医師に占める割合は、15.7%（前年比△0.3ポイント）

**平成27年 看護職員実態調査**

**1 調査の目的**

島根県における看護職員確保対策の基礎資料を得ることを目的とする。

**2 調査の概要**

- (1) 調査期日 ・平成27年10月1日現在
- (2) 調査対象 ・県内に所在する病院（51病院）
- (3) 回答状況 ・51病院
- (4) 調査条件 ・必要数は、現行の診療体制を基本とし、平成28年4月1日に必要な人員  
・現員数は、調査期日現在の人員とし、非正規雇用職員については、1週間の当該施設の看護職員の通常の勤務時間により、常勤換算  
・現員数は、出産・育児休暇者、長期研修者等を除く

**3 調査結果の概要**

- (1) 必要数・現員数・充足率（正規雇用・非正規雇用）  
必要数 : 6,383.0人（前年比+43.7人）  
現員数 : 6,107.5人（前年比+13.5人）  
差引不足数 : 275.5人（前年は245.3人）  
充足率 : 95.7%（前年比△0.4%）  
※必要数増の主な要因 夜勤体制の強化、夜勤回数の軽減など
- (2) 採用数（H26.4.1~H27.3.31）（正規雇用）  
採用数 : 525人（前年比+29）うち新卒者303人（前年比+18人）  
※病院の採用計画に対する実績 85.8%
- (3) 退職者数・離職率（H26.4.1~H27.3.31）（正規雇用）  
退職者数 : 424人（前年比+27人）うち新卒者16人（前年比△1人）  
離職率 : 7.2%（前年比+0.4%）うち新卒者5.3%（前年比△0.3%）

**島根県で勤務していただける方を紹介してください**

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

**医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集**

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

**「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ**

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-5693 FAX 0852-22-6040

E-Mail [iryuu@pref.shimane.lg.jp](mailto:iryuu@pref.shimane.lg.jp)

ホームページ : [www.pref.shimane.lg.jp/iryuu](http://www.pref.shimane.lg.jp/iryuu)

島根の医師確保対策

検索

